

日風堂周

〈高知県立歴史民俗資料館だより・おこうふうじつ〉

第50号

2004年2月1日

資料
見聞

山川阿弥陀堂の

地蔵板碑

山川阿弥陀堂は、香美郡香我美町を流れる香宗川右岸の山川城跡（中山川土居城跡）山麓にある。阿弥陀堂は、

り下の部分をよく見ると、土中に建てられていた痕跡を残している。ただ当初の造立場所は、不明である。

この板碑は、高さ一八二cm、幅三八〇・四三・七cm、厚さは、五〇・五・五cmで、砂岩製である。上部に種子の「パン」大日如来の仏の種子を葉研彫りで刻している。その下に極めて美しい地



現在も中山川地区の人々の信仰に支えられ守られている。地蔵板碑は、かつてこの阿弥陀堂に納置されていたが、現在は高知県立歴史民俗資料館（平成七年三月より）に寄託されている。

板碑とは、中世の石造塔婆の一つで、供養塔或いは逆修塔として建てられた塔で、一観面を原則とするものである。板碑は、一般に種子を刻し仏をあらわしているが、仏の姿を線刻したものや浮き彫りにしたもの、さらに文字を刻したものなどがある。像の刻された板碑は画像板碑とも呼ばれている。

この地蔵板碑は、当初より阿弥陀堂で祀られた塔ではない。板碑の像部よ

蔵菩薩立像を刻している。地蔵は錫杖を右手にもち、左手に宝珠を手にして



山川阿弥陀堂



山川阿弥陀堂石仏

山川阿弥陀堂の地蔵板碑
香我美町山川中山川地区蔵
歴史民俗資料館寄託
平成7年5月19日高知県保護
有形文化財に指定

いる。地蔵尊の下左右には、二名の姿が刻されている。左下には巻物を広げて読み上げるような姿、右下には木札を持ち上げているような姿が刻されている。地蔵の閻魔王の前で亡者の判決文などを記録する司命と司録であろうか。この板碑は年号などは刻されていないが、鎌倉時代後期から室町時代と推定されている。

閻魔王は、地蔵菩薩の化身で、地獄に落ちることがあっても、地蔵菩薩を拜めばその苦しみから救われる。人々は、死後の世界を畏れ、地蔵菩薩に救いを求めたのである。地獄は、現世にあり、ともすれば人の心にある。（岡本桂典）

企画展

石の仏

—土佐の石造美術I—

平成二六年三月五日(金)

平成二六年五月二三日(日)

「石の仏について語る」

埼玉県朝霞市教育委員会
当館学芸課長

野沢均
岡本桂典

(岡本) 人間と石の関係は、石を道具として使い始めた旧石器時代から始まります。今日は、埼玉県朝霞市教育委員会の野沢均さんと石仏について語りたいと思います。

野沢さんは、朝霞市で現在発掘調査に従事されていますが、昨年まで朝霞市博物館で学芸員の仕事をされていました。専門は考古学です。磨崖仏などの石造遺物の研究もされています。



関の磨崖仏 (群馬県新里村) 鎌倉時代

私たちは、お地藏さんや墓参りのときに石に向かって祈りますが、石に祈るといふことについてまず考えてみたいと思います。

(野沢) その前に岡本さんにお聞きしたいのですが、なぜこの企画展を計画されたのですか。実物資料の展示は難しいと思うのですが。

(岡本) 高知県内にも意外と多くの世の石造塔婆や石仏が残っています。一九七〇年代前半、私が県内で確認した板碑は、数基しかなかったのですが、その後、現中土佐町文化財保護委員林勇作さんや日本石仏協合理事岡村庄造さん、戸梶修蔵さん、香崎和平さん、山本弘光さんたちの手でかなりの数の石造塔婆や石仏などが確認され、報告されてきています。その調査は頭がさがります。その成果は、石仏研究家のなかでは知られていますが、石仏の調

中土佐町金石史料

林勇作さん編『中土佐町金石史料』
中土佐町教育委員会

査は拓本を取り、銘文を判読していくなどの地道な調査・研究作業であるため、県民にはあまり紹介されていません。それと、現在はかなりの数の石造塔婆が、工事や地域環境の変化などで



寒い中拓本中の岡村さん

移動されたり、忘れられたりしています。また、銘文自体が二〇年前と比較すると読めなくなっています。そこで、林勇作さんや岡村庄造さんなど、そして写真記録は、タケムラストジオの竹村豊さんの協力を得て、忘れられつつある石の仏について記録しておく

うと考えました。そして拓本や写真、一部実物を展示しようと企画したものです。

(野沢) なにか皆さんの石造遺物にかける意気込みが感じられる企画展ですね。

1. 石に祈る

(岡本) 石に刻まれた仏様や神様を一石仏と呼んでいます。日本では、古くは飛鳥時代から現代まで、たくさんのお仏様が石に刻されてきました。なぜ、石に仏様を刻むようになったのでしょうか。

(野沢) 縄文時代の昔から、石は信仰の対象になっていた事が分かっています。今から六千年もの昔に造られたものとして、東・北日本には環状列石と呼ばれる遺跡があります。秋田県大湯遺跡や山梨県の阿久遺跡などがある柱のようにならべた石を中心にして、川原石が敷かれたもので、現在ではお墓か祭祀跡と考えられています。

また、神社には神様がお出でになる場所として磐座と呼ばれる、石が祀られている場所があります。この磐座は、奈良県三輪神社の神体山の三輪山や群馬県の榛名神社があります。高知では高知市一宮の土佐神社の境内東方にある「礫石」という畳二畳ほどの自然石があります。磐座とも考えられています。



高知市土佐神社「礫石」

ね。

このような磐座と考えられるものの周囲からは、古墳時代と考えられている祭りの道具類が見つかる事があります。

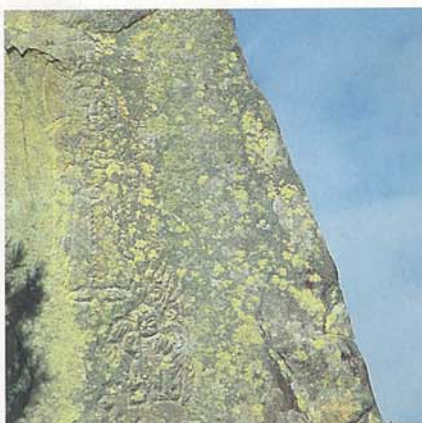
このように、日本では古くから石を祀ることが行われてきたようです。ですから、石仏は石を折り、仏を折るため造られたという側面があるのではないのでしょうか。

2. 石仏の種類

(岡本) 石仏と呼ばれる石造遺物にはいろいろな種類があります。一般的に大きく分類すると、動かせる石仏と動かす事の出来ない石仏がありますが。(野沢) 動かせる石仏のうち、一つの石から一体の仏像が丸ごと彫り出されたものを丸彫りの石仏と呼びます。こ

れは、おなじみのお地藏様などにみる事が出来ます。

これとは別に石の正面のみに彫られたものもあります。線で絵画のように表したものを線刻、少し浮き上がらせたものを半肉彫りなどと呼び、彫り方にも種類があります。動かせない石仏とは、崖や大岩に彫られたものです。これを磨崖仏と呼びます。



磨崖仏 安芸郡北川村柏木

石仏には、以上記してきた仏様の姿を刻んだものではなく、「地藏尊」や「観音菩薩」「南無阿弥陀仏」などと文字が刻まれたものもあります。これらも石仏と呼ばれています。

さらには、正確には石仏とはいえないかもしれませんが、仏像を表す文字を刻んだ板碑や五輪塔などの供養塔もこの仲間と考えられます。また、仏像を刻んだものではありませんが、石仏と同様に神様の姿が刻まれている石造

遺物もあります。神像と呼ぶ事もありますが、一般には石仏と呼ばれています。このような石仏は、日本全国各地に残されています。

3. 石仏の始まり

(岡本) 石仏の歴史は、大変古いものです。仏教発祥の地インドでは、ガンダーラ地方など紀元1世紀頃から石仏が作られるようになります。インド西部のアジャンター郊外にあるアジャンター1仏教石窟寺院などが有名ですね。(野沢) 中国では、六朝時代の雲崗や唐の時代の竜門などの石窟仏が有名ですが、それ以外にもたくさん石仏が作られています。朝鮮半島にも石仏は伝わり、統一新羅時代には南山磨崖仏や慶州石窟庵などが知られています。

(岡本) 日本ではどうでしょうか。(野沢) 飛鳥時代には石仏はありませんが、奈良県の飛鳥地方には、亀石や二面石などと呼ばれる不思議な石造遺物が残されています。近年、亀の形をした石造遺物が発掘されて話題になりました。

(岡本) それでは、石仏はいつ頃から日本では造られるようになったのでしょうか。

(野沢) 『日本書紀』によると仏教が日本に伝わったのは、西暦五三八年の事とされています。このころ、朝鮮半島では、石仏がたくさん造られています

た。そのため、日本にもたらされた最初の仏像は石仏であったとも言われていますね。

先年、奈良県北葛城郡當麻町石光寺では、元の本尊の石仏が発掘され話題となりました。この石仏は、弥勒如来と呼ばれる未来を司る仏様でした。奈良時代に作られたものと考えられています。

そのほか奈良時代に造られた石仏には、奈良県桜井市石位寺三尊石仏や奈良市頭塔石仏群、磨崖仏には滋賀県栗太郡粕坂廃寺石仏などの遺品が残されています。また、滋賀県蒲生郡蒲生町石塔寺には、石造の三重塔が残されています。

これらの石造物は、近畿地方を中心に残っています。そして当時の日本では、加工が難しいと考えられる硬い石に刻まれています。この技術は、仏教が日本に伝来したのと同じ頃、大陸からもたらされたものだと考えられています。

4. 仏教の浸透と石仏

(岡本) 平安時代の後半になると奈良県や滋賀県などの近畿地方だけでなく、各地で石仏が造られるようになりますね。

(野沢) たとえば、大分県臼杵市の臼杵磨崖仏や国東地方にたくさん磨崖仏が彫られたり、関東でも栃木県宇都

宮市大谷磨崖仏や福島県相馬郡小高町泉沢磨崖仏など大規模な石仏が作られます。また、大分県臼杵市中尾五輪塔（嘉応二〇一七〇〇年・承安二〇一一七二〇年銘）や岩手県西磐井郡平泉町釈尊院の最古の紀年銘（仁安四〇一一六九〇年銘）を持つ五輪塔が造塔されています。そういえば高知県にも古い石仏がありましたね。



複製 石造如意輪観音半跏像

（野沢）有名な石造如意輪観音半跏像ですね。石仏が各地で造られるようになるのは、平安二宗と呼ばれる天台宗と真言宗が広まり、その影響下に各地に広まった修験道などの影響があったものと考えられています。

そして、鎌倉時代になると、さらにたくさん石仏が各地で作られます。磨崖仏なども平安時代の作例ほど大規模ではありませんが、各地で造られます。たとえば、奈良県室生郡室生町大野寺磨崖仏や滋賀県大津市藤尾磨崖仏、群馬県勢多郡新里村関の磨崖仏がこれに当たります。また、磨崖仏以外の丸彫りの石仏にも優品が多く京都府京都市大沢池石仏群などがあります。



弥陀三尊・光明真言供養碑 室戸市佐喜浜 応長元年（1311）銘

高知で一番古い紀年銘のある石造遺物はいつのごころのものがありませんか。（岡本）室戸市佐喜浜に昭和二八年（一九二八）県指定になった佐喜浜の経塚碑があります。これは現在二基あり、一基には阿弥陀三尊の種子を刻し、光明真言の梵字があったと思われるが、残念ながら欠落しています。年号は、応長元年（一二三二）で、裏面にも人名が刻されています。もう一基には、光明真言が刻されています。（野沢）経塚の標識ですか。（岡本）埋経の碑ではなく、弥陀三尊・光明真言供養碑と考えられますね。（野沢）埋経の関係の石造物は、ありますか。



大木戸経塚の標識 延文二年（1357）

（岡本）安芸郡安田町東島の大木戸経塚の標識があります。延文二年（一三五七）年銘の阿弥陀種子を刻した板状の塔婆で、経筒と経軸片が出土してお

り、高知県内で類例のないものです。後期古墳の上に造立されたものです。（野沢）経塚の標識の石造遺物は珍しいですね。ついでに、板碑について高知の状況をお聞きしたいのですが。（岡本）埼玉県は、約二八、〇〇〇基の板碑があると言われていますね。高知県は、極めて少ないのが現状です。ただ、これからまだまだ発見される可能性はあると思います。例えば、地藏を刻したものには、年号は刻されていませんが、香我美町山川阿弥陀堂の地藏板碑があります。宿毛市市山には、名号板碑や須崎市には明応五年（一四九六）の名号板碑などがあります。幡多地域には、六地藏板碑がありますが、幡多地域などは確認されていません。（野沢）地域性は認められますか。（岡本）幡多地域には、類型板碑が確認されますが、中部・東部は自然石板碑が主体をなしていますね。分布を調べれば、土佐の中世史の一側面が見えてくると思います。（野沢）今回の展示資料が、基礎となりそうですね。それから遍路関係の石仏や板碑はあ

りますか。

(岡本) 近世の遍路墓は知られているのですが、中世の遍路関係の石仏・石造塔婆の存在は、あまり知られていません。しかし、いくつか確認されています。一つは、高岡郡中土佐町久礼にある天正一九年(一五九一)の「四国



遍路板碑 中土佐町久礼
天正19年(1591)

中辺路……」と刻した遍路板碑があり、須崎市大谷法印山中腹に元和四年(一六一八)の遍路成就供養碑があります。また、須崎市吾井郷に線刻弘法大師像



弘法大師像拓本 須崎市吾井郷
慶長18年(1613)

が刻されたものがあります。慶長一八年(一六一三)の年号があり四国遍路を研究する上で極めて貴重な板碑と石

仏です。

(野沢) 「石造物から遍路を考える」四国でしかできない面白いテーマですね。五輪塔や宝篋印塔などの石造塔婆も取り上げることになっているようですが、展示資料には、実物はあるのですか。

(岡本) 南国市田村遺跡群から出土した五輪塔や田村城館跡にあった現細勝寺に戦時中埋められた一石五輪塔や窪川町市生原の板碑などを展示します。

(野沢) 石塔・石仏の企画展が企画されているところは、ほとんどないように思うのですが。私も期待しています。近世の石造遺物については何か展示の予定がありますか。

(岡本) 一六世紀代に比定される石仏群の謎と近世墓標から現代の墓標の系



石仏 野市町宝鏡寺跡(16世紀)

譜についても展示パネルで紹介する予定です。今日は、ありがとうございます。ありがとうございました。

(この文章は、メールでのやりとりから構成しました。)

土佐の民具13

ヒヤクニチザラシ(百日晒し)

坂本正夫



以前は、産婦が死ぬと「血の道に迷い成仏できない」という俗信がありましたので、その成仏を願って供養するための柵を作っていました。これを土佐ではヒヤクニチザラシ(百日晒し)とかセンニチザラシ(千日晒し)と呼んでいましたが、全国的にはナガレカンジョウ(流れ灌頂)と呼ばれています。人通りの多い道の辻や橋のたもと、

泉のそばなどへ四本の青竹を立て、その上に白布(中央に死者の戒名、対角線上に供養文を墨書します)を張り結びつけます。そばには水を入れた桶と柄杓をおき、通行人に水をかけてもらうのです。

窪川町米奥、西土佐村大宮、三原村皆尾などでは百日のあいだ水をかけてもらわぬと成仏できないといわれていました。土佐市四方寺や吾川村引地仁淀村大植などでは五十日晒すと成仏するといわれていました。また夜須町国光や香北町白川、大豊町桃原、宿毛市楠山などでは布が破れて穴があくと「成仏した」といって喜び、早く破れることを心待ちにしていました。

百日晒しは産死者の場合に作るのが一般的ですが、山や海、川などで事故死して成仏できないと考えられる場合に行われることもありました。

なお、百日晒しの習俗は昭和四〇年代(一九六五―七五)に消滅したのが、今は見ることはできなくなりましたが、大正町立歴史民俗資料館には模型が収蔵されています。



土佐市四方寺の路傍で見かけた百日晒し(1965年頃)

職場体験

南国市立北陵中学校

企画展「石の仏」 展示準備

平成一六年一月二〇・二一日に僕たち南国市立北陵中学校二年生の四名（徳橋貴志・濱田将裕・松岡大輔・松崎竜也）は職場体験を歴史館でさせていただきます。



北陵中学校の職場体験の実習生

初日、初めての事は、館長さんや副館長さんから高知県の文化財や歴史館の歴史や業務内容について話を聞くことでした。文化財保護の重要性や伝統文化の継承の必要性について学ぶことができました。

館長さんや副館長さんからの話を聞く前に職員の方から日程の確認がありました。今回の職場体験で三月五日から始まる企画展「石の仏」の展示の一部を自分たちが担当すると聞かされました。

受付業務の仕事が終わると企画展示室に行き、そこで自分たちが展示する資料を見せてもらいました。石に仏像が刻まれた石仏と二石五輪塔（五輪塔を一石に刻んだもの）です。それを工作室に



資料の洗浄（工作室）

た。乾かすために、段ボールとエアーマットを重ねて床の上に敷き、並べました。並べられた資料を見ると、何か達成感がこみ上げてきました。

資料が乾くまで展示作業はできません。それまで、体験学習に使用する茶運び人形の模型を二人一組で作りました。細川半蔵の「機巧図彙」に出ている茶運び人形と同じ仕組みです。

二日目は、展示作業です。自分たちが展示する資料は石仏三点です。工作室より資料を企画展示室に運び、展示に使うケースや展示台を倉庫より運び出しました。ケースの設置も資料を見る人の立場に立ち位置を決めました。

いよいよ展示作業が始まりました。まず、ケースの中に台を置き、そ



展示作業

の上に石仏をのせました。資料の位置は車椅子で見られる方や老人、子どもの視線で高さを決めます。そして、石仏が倒れないように、テグスで固定しますが、作業中に資料が倒れないよう気を配る大変な作業でした。特に、大変だったのが、資料の両面を見せる展示です。資料が倒れないように、両面から引き合せてバランスが取れるようにテグスで結びました。照明もただ当てるのではなく、石に刻まれた線がうまく浮かび上がるように角度を考えて当てます。



展示完成

資料の展示は見る人の立場になって考えなくてはならないので、いろんな所に神経を使うので大変な作業だと思いました。最後に、この職場体験で職員の方の仕事が思ったより大変ですごく疲れることが分かりました。来館者への

気配りなど、されて当たり前のことをいざ、自分たちがやるとなると大変なことが分かりました。また、人から見えない所で仕事をするのが、いかに大変であるかわかりました。そして、この職場体験を今後の生活に生かしていこうと思えました。

是非、僕たちの展示を見に来てください。



民俗展示室 企画コーナー

おひなさま

毎年この季節には、おひなさまを展示しています。凧になったおひなさまや、ハマグリの中にちよこんと座ったおひなさま、明治時代から昭和にかけて高知の庶民の間で人気があったといわれる立ち雛ほか、全国各地の郷土玩具のおひなさまなど約二〇点です。

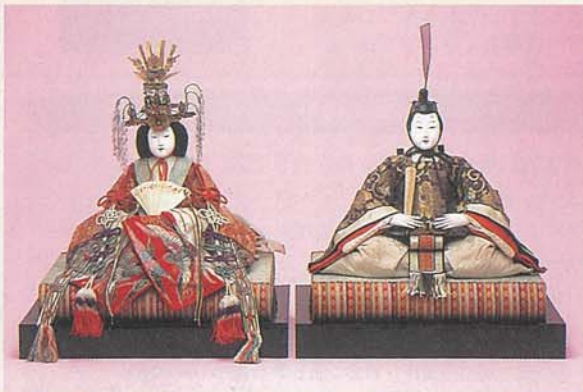
郷土玩具の収集家、故城田政治さんから寄贈されたコレクションが中心ですが、男の子が飾っていたという十軒店の内裏雛も紹介します。



高知県の立ち雛 (城田コレクション)



福岡県の孫次凧



十軒店の内裏雛 柳原正氏寄贈

左の写真は柳原正さんから寄贈されたもので、正さんのお兄さんが飾っていたそうです。かつては男の子が丈夫に成長するようにと、男の子を女の子として一時期育てるといいう風習があったといえます。十軒店は東京都中央区にある大通りの通称で、雛人形や五月人形を売る店が軒を並べていました。

素材でかわいらしい郷土玩具のおひなさまや十軒店の豪華な内裏雛に、ぜひ会いにきてください。(中村)

カルチャーサポーター新メンバー募集!

カルチャーサポーター 門田 稔

歴史館のカルチャーサポーターは、学校団体が来館したときの体験学習「火おこし」や「勾玉作り」などをサポートしています。大昔の道具で一所懸命に火をつけたり、個性的な自分だけの勾玉を作ったり：子どもたちのいきいきとした姿をみるのは何とも楽しいものです。

また、躰の意味もあって、子どもたちに後片付けまでしてもらっています。かつては地域社会でも子どもを育てていました。しかし、現在ではそうした絆も薄くなっています。

そんな中で歴史館の体験学習は、子どもたちにとって親以外の大人と触れあう良い機会ともなっているのではないかと思います。

とは言え、学校団体が来館するのは平日ということもあって、必要なサポーターの数が確保できないこともあります。現在のサポーターは、平日に仕事をしている人が多く、土・日曜日のワクワクワークをサポートするメンバーは充実しているのですが、平日参加できる人は限られているのです。

そこで、退職された方で時間の出来た、小中学校の元先生方にぜひ参加してもらいたいと考えています。私自身、公立学校教員を退職し、歴史館で新たな活躍の場を得たことで経験を活かせると喜んでいるからです。

私たちカルチャーサポーターは、お互い話し合いながら和気あいあいと活動しています。新年を迎え、今年も頑張ろうとはりきっています！あなたもサポーターになってみませんか？子どもたちの笑顔に、大切な何かを教えることができます。



火おこし カルチャーサポーターと共に 室戸市立吉良川小学校 2003年6月5日

れきみんサークル いま平成16年度入会受付中

れきみんサークルは、高知県立歴史民俗資料館をご利用いただくためのサークルです。事業の企画展や史跡めぐりなど各種催し報を提供いたします。

の特典

会員証を提示すれば常設展及び館主催の企画展（特別展）へご優待します。編集の図録、研究紀要など全ての書籍が会員だけの特別割引価格(100～200円)でご購入いただけます。年間館の活動記録「年報」（非売品）、3回発行する館広報誌「岡豊風日」をお付けします。

史跡めぐりの企画展、講演会、史跡めぐりなどの案内を送付します。文化活動（句会、生け花等）が目的の場合、岡豊山歴史公園の民家（登録有形文化財）をご利用できます。

方法

資料館の受付で直接入会

便振替

申込票に住所・氏名・電話番号・年齢・生年月日・性別・勤務先（電話）をご記入ください。

郵便為替口座番号）01690-8-58321
加入者名）高知県立歴史民俗資料館
れきみんサークル

会費 1,200円

手続き終了後、左の会員証を発行いたします。

会員証の有効期限は、平成16年4月1日～17年3月31日までです。（毎年更新が必要です）

岡豊風日（おこうふうじつ）第50号
平成一六年二月一日
編集・発行 高知県立歴史民俗資料館
〒783-0044 南国市岡豊町八幡1000
TEL 088-866211
FAX 088-866211
開館時間 午前9時～午後5時
（入館は午後4時30分まで）
休館日 毎週月曜日（祝日及び振替休日）
にあたる場合は翌日（例）
1月4日、臨時休館
通常期「常設展」大人（18歳以上）40円・団体（20人以上）30円
高校生以下、高知県及び高知市在住者、療育手帳、身障者手帳所持者 無料

平成16年3月～平成16年5月の催し物 企画展

石の仏 —土佐の石造美術 I—

平成16年3月5日(金)～5月23日(日)

「子どものころ、路傍の仏さまに手をあわせたことを覚えていますか？」さて、春の企画展はそんな土佐の石造塔婆や石仏などを取上げました。五輪様などとして祭られている五輪塔や仏様を刻した石仏や遍路関係板碑、そして現代へ続く近世墓標へも焦点を合わせてみました。展示資料は、石造物の拓本や写真、一部実物資料を展示します。忘れられつつある石造文化遺産に一度触れてみてください。



講演会

平成16年3月20日(祝・土) 13:00～16:20 (会場: AVホール)

- 「中世・土佐の石造物」 13:00～14:15
中土佐町文化財保護委員 林 勇作氏
- 「土佐の石仏—その特徴と課題—」 14:15～15:30
日本石仏協合理事 岡村庄造氏

小シンポジウム ～土佐・中世の石造塔婆～ 15:40～16:20
林 勇作氏・岡村庄造氏 司会: 当館学芸課長 岡本桂典
<葉書かEメールでお申し込み下さい 先着100名>

展示室トーク

平成16年3月6日(土) 14:00～15:30 (会場: 企画展示室)

平成16年5月3日(祝・月) 14:00～15:30 (会場: 企画展示室)

<お申し込みは不要です>

ワクワクワーク

土佐民話の家⑫ お地藏さんの話

講師: 市原麟一郎氏

平成16年3月7日(日) 14:00～15:00 (会場: AVホール)

企画展「石の仏」に関連した野の仏の民話に耳を傾けてみましょう。

<電話かEメールでお申し込み下さい 先着順>



企画コーナー（民俗展示室）

おひなさま

平成16年1月30日(金)～3月13日(土)

城田政治さんの郷土玩具コレクションを紹介する恒例の雛人形コーナー。凧になったおひなさまや指先大の小さなものなど約20点を展示します。

月・日	主な出来事
15. 12. 22	収蔵庫燻蒸 臨時休館
12. 27	
12. 28	年末年始休館

「歴民の日」
5月3日は(祝・月)
入館料無料